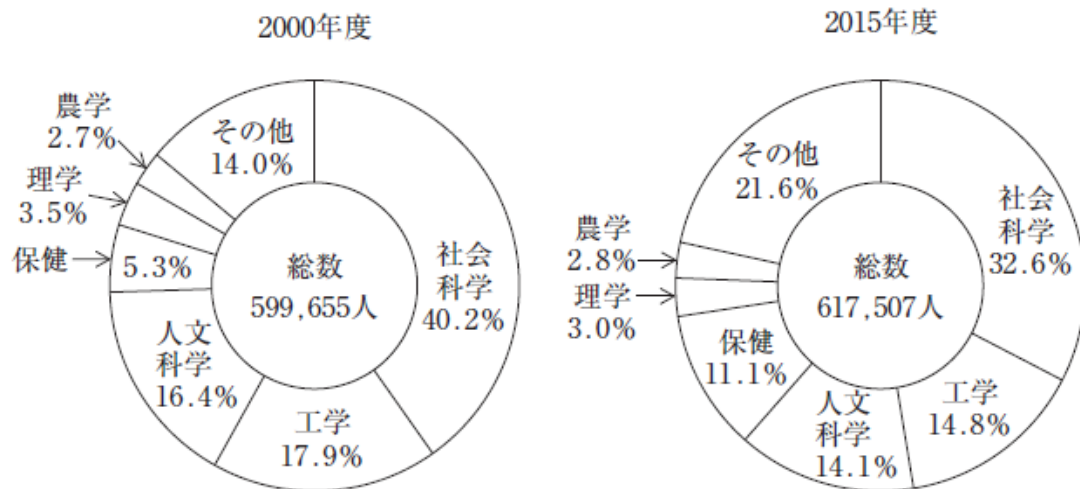


【問題A】 次の円グラフは、大学入学者数及びその学科別構成比の推移である。問1及び問2について、適切なものはどれか【30年特別区24】



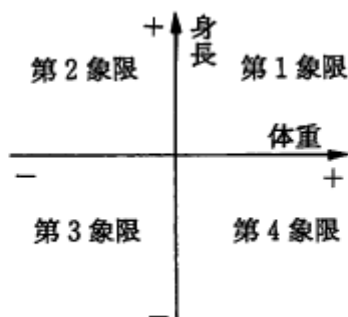
【問1】

- 2000年度の工学の大学入学者数を100としたときの2015年度のその指数は、90を上回っている。
- 2015年度における理学の大学入学者数に対する社会科学の大学入学者数の比率は、2000年度におけるそれを上回っている。
- 保健の大学入学者数の2000年度に対する2015年度の増加数は、農学の大学入学者数のその35倍を上回っている。
- 社会科学の大学入学者数の2000年度に対する2015年度の減少率は、人文科学の大学入学者数のそれより大きい。
- 2015年度の社会科学の大学入学者数は、2000年度のその0.9倍を上回っている。

【問2】

- 保健の大学入学者数の2000年度に対する2015年度の増加数は、農学の大学入学者数のその35倍を上回っている。
- 2015年度の社会科学の大学入学者数は、2000年度のその0.9倍を上回っている。
- 2000年度の工学の大学入学者数を100としたときの2015年度のその指数は、90を上回っている。
- 社会科学の大学入学者数の2000年度に対する2015年度の減少率は、人文科学の大学入学者数のそれより小さい。
- 2015年度における理学の大学入学者数に対する社会科学の大学入学者数の比率は、2000年度におけるそれを下回っている。

【問題B】 表は、A～Dの各高校の生徒全員の身長と体重の記録を、全国平均と比較して、その分布を直交座標系に分類して構成したものである。なお、+は全国平均を上回ることを示し、-は下回ることを示している。問3及び問4について、この表からいえることとして正しいのはどれか。【499\_PT2】



全国平均を0としたときの身長と体重の直交座標軸

高校名	人数	第1象限	第2象限	第3象限	第4象限
A	200人	32%	24%	28%	16%
B	500人	30%	19%	22%	29%
C	400人	25%	14%	41%	20%
D	800人	17%	31%	18%	34%

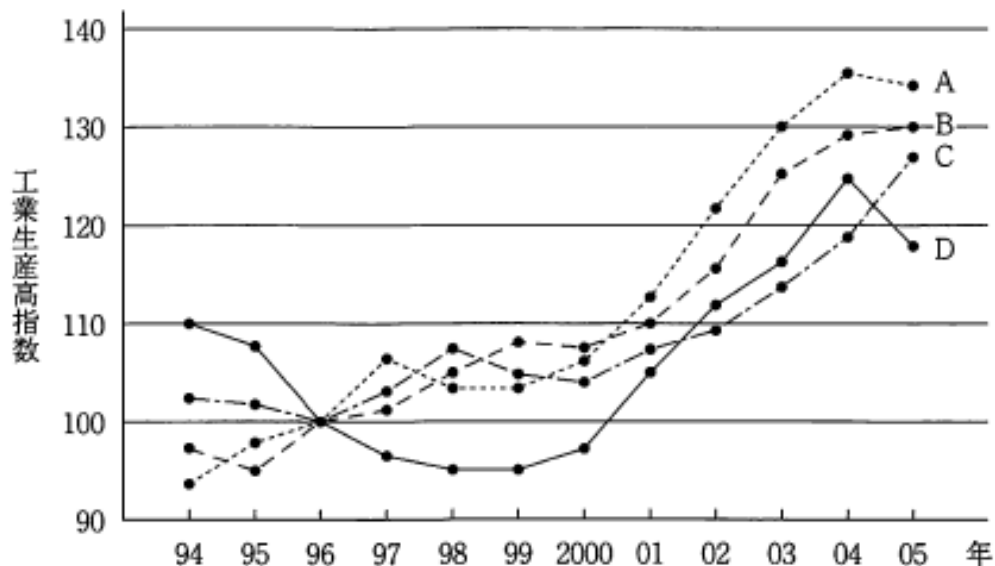
【問3】

- 1 身長・体重とも全国平均を上回る生徒数が最も多いのはD校である。
- 2 身長・体重とも全国平均を下回る生徒数が最も少ないのはD校である。
- 3 身長では全国平均を上回るが、体重では全国平均を下回る生徒数が最も少ないのはC校である。
- 4 身長で全国平均を上回る生徒数が最も多いのはC校である。
- 5 体重で全国平均を上回る生徒数が最も多いのはD校である。

【問4】

- 1 B校の身長・体重とも全国平均を上回る生徒数は、C校の身長・体重とも全国平均を下回る生徒数よりも多い。
- 2 体重で全国平均を下回る生徒数について、身長の面で全国平均を下回るA校の生徒数は、全国平均を上回るC校の生徒数よりも多い。
- 3 全国平均と比べて身長が高く体重が軽い生徒数は、D校の人数は他のABC校の合計人数よりも少ない。
- 4 全国平均と比べて体重が重くて身長が低い生徒数は、A校とB校の合計人数は、C校とD校の合計人数よりも多い。
- 5 体重で全国平均を上回る生徒で、最も重い者はD校にいる。

【問題C】 図は、A～Dの4か国の工業生産高の推移を、1996年を100とした指数で示したものである。問5～問7について、この図から確実に言えることとして最も妥当なものはどれか。【p512\_Q13\*】



【問5】

- 1 2001年以降、4カ国中、A国の生産高が常に最も多い。
- 2 1994年の生産高は4カ国中、D国が最大であったが、2005年はD国が最小である。
- 3 2004年の対前年増加率が最大である国はD国である。
- 4 2005年の4カ国の生産高の合計は1996年のそれの1.3倍より少ない。
- 5 1996年の4カ国の生産高の合計は1994年のそれより少ない。

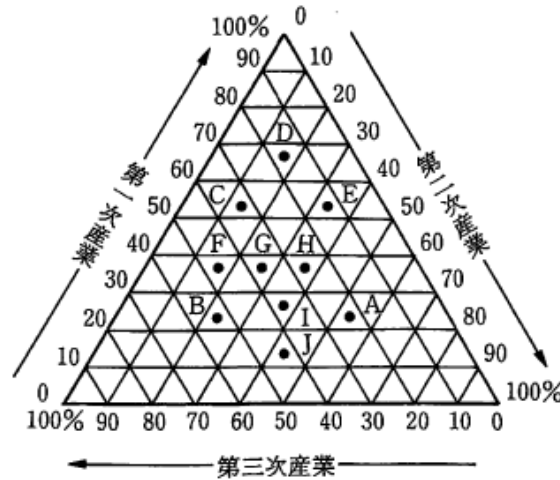
【問6】

- 1 2004年の対前年増加率が最大である国はA国である。
- 2 1996年のC国とD国の生産高の合計は1994年のそれより少ない。
- 3 2005年の4カ国の生産高の合計は1996年のそれの1.3倍より少ない。
- 4 1994年の生産高は4カ国中、D国が最大であったが、2005年はD国が最小である。
- 5 2001年以降、4カ国中、A国の生産高が常に最も多い。

【問7】

- 1 2005年の4カ国の生産高の合計は1996年のそれの1.3倍より少ない。
- 2 1996年の4カ国の生産高の合計は1994年のそれより少ない。
- 3 1994年の生産高は4カ国中、D国が最大であったが、2005年はD国が最小である。
- 4 2001年以降、4カ国中、A国の生産高が常に最も多い。
- 5 2004年の対前年増加率が最大である国はD国である。

【問題D】 図は、A～J 10か国の産業別就業人口比率を示したものである。問8及び問9について、この図からいえることとして正しいのはどれか。【p516\_Q17\*】



【問8】

- 1 第一次産業就業者比率が50%以下の国は3カ国である。
- 2 第二次産業就業者比率が40%以上の国は1カ国である。
- 3 第三次産業就業者比率が30%以下の国は5カ国である。
- 4 A国における第一次産業就業者数と第三次産業就業者数は、ほぼ等しい。
- 5 B国の第三次産業就業者数とC国の第一次産業就業者数は、ほぼ等しい。

【問9】

- 1 B国の第三次産業就業者の比率とC国の第一次産業就業者の比率は、ほぼ等しい。
- 2 A国における第一次産業就業者数と第二次産業就業者数は、ほぼ等しい。
- 3 第一次産業就業者比率が30%以下の国は6カ国である。
- 4 第三次産業就業者比率が60%以下の国は2カ国である。
- 5 第二次産業就業者比率が40%以下の国は5カ国である。

【問題E】

【問10】 次の①～③の計算の判断について、適切なものはどれか。

- ①  $\frac{1949}{2019}$  と  $\frac{1952}{2022}$  を比べると、後の方が大きい。
  - ②  $\frac{1176}{3139}$  と  $\frac{1284}{3472}$  を比べると、後の方が大きい。
  - ③ 定価9,800円の商品を購入するとき、1割引で消費税別で買う場合と、消費税込みの定価で買う場合とでは、前者の方が安くて得である。
- 1 ①から③のすべてが正しい。
  - 2 ①は正しいが②、③は間違い。
  - 3 ①、③は正しいが②は間違い。
  - 4 ②、③は正しいが①は間違い。
  - 5 ②は正しいが①、③は間違い。